

ウイルスとは

病原体（びょうげんたい）の一種（いっしゆ）で、細菌（さいきん）よりずっと小（ちい）さく、電子顕微鏡（でんしけんびきょう）でやっと見（み）えるくらいです。細菌は自分（じぶん）で増（ふ）えることができますが、ウイルスはほかの生物（せいぶつ）の中（なか）で増えて、病気（びょうき）を引（ひ）き起（お）こします。【国立国語研究所「病院の言葉」委員会より】

→ここがポイントです。ウイルスは、自分では増（ふ）えることができず、ほかのもの（新型コロナウイルスの場合は、人）に移して（移って）はじめて生きることができるのです。これを感染（かんせん）といいます。つまり、感染を止めることができれば、病気はそれ以上広がらないということです。

感染には、大きく2つの経路（けいろ）道（みち）があります。



【国立国際医療研究センターホームページより】

「接触感染（せつしやくかんせん）」

感染者（かんせんしゃ）がくしゃみやせきを手（て）で押（お）さえた後（あと）、その手で周（まわ）りのものにふれるとウイルスがつきます。他（ほか）の人（ひと）がそれを触（さわ）るとウイルスが手につき、その手で口（くち）や鼻（はな）を触ると粘膜（ねんまく）から感染します。

「飛沫感染（ひまつかんせん）」

感染者の飛沫（ひまつ）[くしゃみ、せき、つばなど]と一緒にウイルスが放出（ほうしゅつ）され、他の人が、そのウイルスを口や鼻から吸（す）い込（こ）んで感染します。